

平成28年度 第3回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成29年3月10日(木) 午後3時～午後4時30分

2. 場 所

3. 出席者

(構成員) 鈴木俊美 市長、荒川律 委員(委員長職務代理者)

西脇はるみ 委員、若林由美子 委員

林慶仁 委員、赤堀明弘 委員(教育長)

(事務局) 早乙女 総合政策部部長、松本 教育部長、鵜飼 生涯学習部長

寺内 総合政策課長、天海 教育総務課長、島田 学校教育課長

福田 生涯学習課長、他担当職員

4. 内 容

(1)開 会

(2)あいさつ

○鈴木市長

本日もよろしく申し上げます。

(3)協議・調整事項

①小中学校適正配置に関するアンケート調査結果について

○事務局

※資料により説明を行った後、協議に入った。

○荒川委員

大宮南小について、新入児童数は平成34年度まで他校と変わらないのにも関わらず、統合しなくてもいいという意見が多いのは、小規模特認校制度利用者が相当数いるからということですが、今後も同様に推移するかは未知数だと思います。その事について保護者へきちんと説明した方がいいのではないのでしょうか。

○事務局

4年間に24人が制度を利用しています。毎年6人ぐらいが入ってきており、29年度についても6人の利用が予定されています。新入学見込みとして今後ずっと6人ずつ加えていくことは難しいとは思いますが、安定的に入ってきてはいます。

○鈴木市長

大宮南小や国府南小は、愛着度や誇りが強いように感じます。それでも、国府南小については、適正な学校規模にしていく必要性を感じているという意見もあり、迷っていることが窺えます。

○荒川委員

大宮南小の自由記述のところに、「小規模特認校制度利用によって学校の質が悪くなってきた気がする」という意見がありますが、本当にそのように感じている

ならば怖いと思います。

○鈴木市長

新設校として統合するという意見も多いようです。スクラップアンドビルドといっても、これからはビルドが難しいと考えています。皆川中の「もっと早い対応をすべきであった」という意見や、寺尾中の「対策が遅すぎる」「生徒数が増える見込みがないことは分かっていた」、藤岡二中の「早急に統合に向かうべき」「統合ありきでよい」「行政主導で進めて欲しい」「早急に統合に向けて進めて欲しい」など切実感のある意見が多いと思います。地域による違いはあるものの、もう統合に持っていかなざるを得ないというところは、一步を踏み出さないといけません。今読んだ意見に私もどちらかといえば賛成するところがあり、とにかくどうしたいかということは、早く打ち出すべきでしょう。大宮南小での今のままでいいという意見が多いことについて仕方ないというのであれば、大宮南小についてはしばらく様子を見ようというなど少なくとも自分たちの考えは言うべきだと思います。それについて反対の方がいれば意見も出てくるでしょうし、そういったことを通して動いていくしかないと思います。

○荒川委員

通学距離の問題で、スクールバスを運用するとのことですが、各学校に複数台用意するのでしょうか。例えば栗野中が一つになったときには4方面で、方面ごとに2台ずつ用意し、その時間帯しか動かないというものでした。スクールバスも費用を考えると無駄な面がクローズアップされる危険性もあると思います。朝と夕方だけではないか、中学生なんだから自転車で通わせるべきといった話にもなりかねないと思います。中学生の基準は6キロなのではないでしょうか。

○事務局

6キロです。当然対象校である寺尾、皆川、藤岡二中については、他の所に通うということになれば、寺尾・皆川であれば吹上となりますが、6キロを超えてきますし、藤岡二中も一中に行くとなれば最高で7キロという子供たちがでるので、スクールバスで対応するということとなります。

○荒川委員

最高で7キロということは、6キロまでは自転車で、6キロを過ぎるとスクールバスという考え方なのではないでしょうか。ある程度基準はあるということではないでしょうか。

○事務局

基準はあります。岩舟中がスクールバスを2台出していますが、旧岩舟町時代に中学校3校を統合するとき、大字小野寺地区だけはスクールバスに対応したことになったため、6キロを切るところもありますが、スクールバスで対応しているという例があります。

○鈴木市長

ふれあいバスが使えるところがあればそれを考えることもできます。朝の通学の時間帯は、それに合わせて時刻ダイヤを組めばいいとも言えるので、使えるところは使った方がいいと思います。例えば、大平南では伯仲というところから朝乗って来ています。スクールバスではありませんが、昔分校があったようなところで、遠いため、朝はふれあいバスを利用してる児童が10人ぐらいいるようで

す。スクールバスではないので、もちろん有料となります。帰りは、ほとんど乗らないと聞いていますが、朝はみんな忙しいので、朝だけ利用しているようです。

○荒川委員

通学距離についてはあまり考えなくてもいいのでは、という話をしないとそればかりが前面に出てしまうかもしれません。

○事務局

小学校4キロ、中学校3キロで区切ってしまうと心配になる保護者もかなりいると思います。スクールバスと引き換えに統合ができるのであれば、統合の方がメリットは十分あります。学校運営には、相当の費用がかかり、スクールバスの費用の比ではありません。スクールバスには国の概ねの基準として小学校4キロ、中学校6キロということで補助も出ている関係もあり、その辺の基準は守りたいという考えがあります。

○荒川委員

保護者の経済的負担が大きいということになれば考えなければなりません。

○事務局

現在、小規模特認校については、保護者が送迎対応をしており、理解していただいていると思いますが、もし統合となれば市の対応が必要となってくると思います。

○鈴木市長

統合先としては、真名子は西方小ですか。

○荒川委員

保護者自体はそれほど抵抗ないと思いますが、高齢の方たちはいかがでしょう。

○事務局

小規模特認校推進委員会の方たちの意見として、真名子地区の子供たちが減ったのは自分たちの責任でもあるという話もしていました。若い人たちが外へ出てしまうのは真名子地区の魅力がなくなっているからという話をしていたので、その辺りを感じながら委員会の人と話していると、学校の統合も仕方ないと思っている人もいるようです。

○荒川委員

適正配置の説明会のときですが、子供たちが通っていない地域の方も相当数来ていましたので、地域の方も真剣に考えているのではないのでしょうか。

○鈴木市長

大宮南の5年生が1人というのは、真名子よりも厳しいと思います。複式にしようというわけにはいかないでしょうが、こちらも必死に防いでいるということを理解してほしいと思います。アンケート結果もこういうことですし、自由意見の中でも先ほど話した意見がありますので、あなたたちはどうするのだと言われていることをご理解いただき、自分たちのこれからの方針をできるだけ早急に出すよう助言をさせていただきます。

②小中一貫教育について

○事務局

※資料により説明を行った後、協議に入った。

○鈴木市長

4月から小中一貫教育に移行することをふまえて、協議を始めます。

○赤堀委員

取り組みについて、学校運営協議会はコミュニティスクールのことだと思えますが、これは栃木市の独自性が出てくると思います。コミュニティスクールが実施される中で小中一貫を合わせていくということですから、コミュニティスクールの組織もこの推進組織に入ってくるということかと思えます。特別に作る組織ではなく、必然的に作られている組織で、それがブロック会議というもので統括されることで小中に関わるということです。そこからイラストで説明されるとより分かりやすくなるかもしれません。後輪のコミュニティスクールが駆動することによって、より一層、小中一貫性の教育が進められて、地域ぐるみで目指す子供像を実現していくということだと思えます。

○林委員

学力の向上ということで出ている事項が今行っていることと同じように感じます。カリキュラムを創っての学力の向上なのか、今行っていることを広げて行おうとしているのかがイメージしにくいのですが、どのようなことでしょうか。

○事務局

基礎基本の定着のところにあります、個の授業力の向上・家庭学習の習慣化・地域ボランティアによる学習支援という3つのことについては、学校と地域が協力していくという中で挙げたものです。実際に基礎基本の定着ということで各学校が取り組んでいることは、小学校の年間指導計画・中学校の年間指導計画というのがあり、それに基づいて勉強しているのですが、その中で学力学習状況調査の結果を踏まえて落ち込んでいるところがあります。例えば、算数や数学で図形が落ち込んでいるとすれば、その落ち込んでいることについて小中学校が話し合いをしながら図形の学習のために何時間の授業を+αしたらいいのかというようなことです。その系統性を今検討しているところであり、そういった意味での一貫性のある教育というものを計画しています。

○林委員

カリキュラムを変えるのではなく、落ち込んでいるところをなくし、みんな同じようにできるようにするということですね。

○荒川委員

外国語教育についてですが、先ほどの話にもありましたが、中学校の先生が小学校でも教えるということになるのでしょうか。先生の仕事量が増えてしまっては何にもならないと思います。外国語教育の時間をどこに入れるのかでさえ大変な課題なので、先生の仕事量が増えすぎてしまうとうまくいかない気がします。

○事務局

業務改善も求められている時代ですので、小中一貫教育が入ることによって、先生たちの多忙感や負担感が増えるというのはマイナスだと考えておりました。その結果として、小中一貫の話し合いの時間を多くとってもらうために、今までの学校教育が行っていた研修の回数を減らしました。その分を小中一貫の方にあててもらおうと、絞れるところは絞って11回カットしました。また、平成26年度に実施された文科省の全国調査で、小中一貫を行ったことにより教員の多忙感や満足感がどうだったかという項目では、研究学校だったからかもしれませんが、そのことによる多忙感が増えたというよりも充実感が増えたという割合の方が多かったというのが現状です。

○赤堀委員

一つ付け加えますと、小学校における英語の時間について、実際、誰が指導をするかということと小学校の先生がするわけで、中学校の先生が指導するものではありません。そのため、小学校は大変だと思います。中学校レベルの授業時間になりますが、文科省は分かっている上でなんとか工夫をするよう言っています。工夫の仕方は色々ありますが、結局は、授業が実質1時間プラスになるのではないかと思います。あとは、長期休業を短くするかあるいは、1単位時間を細切れにして朝の時間に位置づけるか。文科省も無理を承知でというところもあるようですが、できるだけ各市町レベルで考えてくださいということです。それは今後考えなければなりません。

○荒川委員

英語を嫌いになってもらっては困るというのがあります。

○若林委員

今まで何度か見学させていただいた小学校の英語の授業では、すごく楽しそうでした。そうした中、5・6年に中学1年分が降りてきたときに、いかに楽しくやり抜けてくれるかと感じます。

○赤堀委員

話す・聞くだけだったところに、読む・書くが入ってきて、嫌だなという印象をもってしまわないでしょうか。

○鈴木市長

特に小学校は楽しい英語であって欲しいと思います。大宮南小における小規模特認の特徴の一つとして、英語に力を入れている点があり、それが人気だと聞きます。外国の方が教えているということですが、そういった方を雇うという方法もあるでしょう。雇うのにはお金が掛かるので、そう簡単にはいかないですが、これからは、色々な工夫が必要になります。なんでも教員に行わせなければいけないというわけにはいきません。先生も普通の人ですから、みんなで補う工夫をするしかないと思います。なんでもかんでも行わせては、忙しくもなるでしょうし、工夫を考えていく中で、栃木らしさも産み出して欲しいです。

○若林委員

今まで行っていた小学校における英語の授業では、カードなどの道具を使って遊びながらという感じが多かったと思います。そのカードなどを先生が個人で作ろうとすると非常に大変ですが、それを一括して、市内の小学校数分を市で用意

してもらえれば、ずいぶん手間を省けるのではないかと思いますし、先生の負担軽減になると思います。

○鈴木市長

市採用免許取得者で行おうとすると、正式採用の教員との給与格差をどうするという話になり、お金がないということになってしまいます。もっとアルバイトのような形で出来ないのでしょうか。1単位教えると幾らとかならば、それほど掛からないと思います。例えば、ヤマトファッションビジネスには、何百人もの外国人が来ていますし、学校教育法に反するのでしょうか。

○事務局

非常勤でも、1単位幾らでも大丈夫です。

○鈴木市長

こう言うのは失礼かもしれませんが、5,000円や1万円で引き受けてくれないのでしょうか。そういうことを含めてフレキシブルに考えていきましょう。教育長からお話がありましたが、2・3ページの図の中で、コミュニティスクールという表記になっていますが、それ以外は学校運営協議会になっています。どちらかに統一するか括弧書きするのはどうでしょうか。

○赤堀委員

普通は、学校運営協議会の方がわかりやすいと思います。

○鈴木市長

それで統一した方がいいと思います。あと、教育長もお話しされていましたが、ブロック会議（合同学校運営協議会）となっている所について、逆のような気がします。これでは、ブロック会議とはなんのブロック会議なのかということで括弧して説明ということになります。括弧の中に特徴があるわけなので、これをまず表に出してそのブロック会議だと位置づける方がわかりやすい気がします。それから、本市ならではの小中一貫教育という表記について、資料ではここだけかもしれませんが、よく使う表現です。この中身として、例えば学校運営協議会が小中一貫教育をよく見ていくというのは独特で、栃木市らしさになってくると思いますが、あと他に何が本市ならではのの中身なのかも分かりやすくどこかにまとめて書いた方がいいと思います。それが学校運営協議会だけだとするとちょっと弱い気がしますので、そこを工夫してもらいたいと思います。また、林委員もお話しされていましたが、学力向上という点では、以前も申し上げた通りで、本市は低いということ素直に認めてそれをどう補充していくかということについても、ぜひこの小中一貫教育というものを有力な武器にしてもらいたいと思います。学力向上にも小中一貫は寄与するということをもう少し盛り込んでほしいです。また、教職員の交流協働についてですが、これは私も重要であると思います。先生たちは、孤立しがちなところがありますが、小学校と中学校の教員が交流することで仲間が増えていくと思います。小学校から中学校に上がった時点で中学校の教員が小学校でこの子はもう少しこのあたりを行っておけばよかったという思いを持ったり、逆に小学校の先生が中学校に上がったあの子が駄目になってしまったり、逆に小学校の先生が中学校に上がったあの子が駄目になってしまったり、逆にならぬように、小学校と中学校の教員が交流することで仲間が増えていくと思います。そういう意味でも仲間になって行っていくのは大事なことなの

ではないでしょうか。仲間がたくさんできるというのはいいことだと思いますので、教員間の交流促進策を考えるのもいいかもしれません。ぜひ楽しい小中一貫にしてもらいたいです。第1ステージが31年度まで、第2ステージが32年度以降というのは、長期スパンという感じはしますが、これは仕方がないのかもしれませんが、まずは、一つの制度をどれだけ早く軌道に乗せて次を目指すかということを行っていけば焦る必要はないと思います。今、行わなければならないことを行うということが大切なことだと思います。

○荒川委員

義務教育学校というシステムがありますが、栃木市としてはあのような形の小中一貫は選択肢にあるのでしょうか。

○赤堀委員

基本的に義務教育学校も小中一貫教育の一つです。本市の形については、以前まで小中一貫として認められていませんでしたが、今回学校教育法が変わることで、施設分離型として小中一貫に認められました。

○鈴木市長

先ほどの適正配置に絡む話だと思いますが、義務教育学校となると施設一体型ということで、統合ということも考える必要がでてきますか。

○事務局

分離型でも大丈夫です。

○赤堀委員

小山市では隣接している所を使っています。絹中と梁・延島・福良小で、絹中と福良小が隣接しています。一体型というか敷地も隣接していますから一体型になっています。

○鈴木市長

限りなく接してはいるけれど別ということですね。

○事務局

今の小学校や中学校の施設をそのまま使ったうえで、渡り廊下でつなぐ形の一体型で運営するのですが、それならば敷地が隣接しているため意味があります。本来であれば義務教育学校は施設一体型で運営するのが効率的で、今度佐野市で始まります。

○赤堀委員

西方小と西方中は比較的近いですが、可能でしょうか。

○荒川委員

私の頃は、西方小学校に小学校と中学校がありました。先生の免許の問題はどうなるのでしょうか。

○赤堀委員

小学校と中学校の両方を持っている人が見ることになります。

○荒川委員

基本的には両方持っていないと教えられないということですね。

○赤堀委員

小山市も2年ぐらいかけて人事を進めていました。

○鈴木市長

小中学校の合併のようなものなので人員合理化にはなりますが、弊害もあります。義務教育学校は大変な部分もあるので、まずは、小中一貫で交流を育みつつ、タイミングを見てモデルで一校実施してみるなど、見極めながら行っていけばいいと思います。

(4)その他

※事務局から次回の日程等について説明を行った。

(5)閉会（16：30）